

## 英語総合演習 休校中の課題⑥ 5月15日発行

### 和文英訳

次の日本語を英語に直しなさい。

ノートを1冊用意して、問題の和文を書き、その下に英訳を書きなさい。

翌週に解答例と解説を示すので、赤で訂正をすること。そのノートは学校が始まってからノートを提出してもらいます。

### 5月15日の分

26) 先日描いてもらった地図のおかげで、迷わずにここまで来ることができました。

27) この夏に2週間の休みを取り、妻とヨーロッパ旅行に行きました。

28) ボブはずいぶんと変わっていたので、このまえクラス会で会ったときに彼だとわからなかった。

29) 20年ぶりに訪れた故郷はすっかり変わってしまい、昔の面影をと

どめていなかった。

3 0) 昨日は数学の予習に追われて 4 時まで起きていたので、とても眠い。

### 5 月 8 日分の解答例と解説

2 1) コンビニでアルバイトを始めてから 1 週間にしかならないが、もうすっかり仕事に慣れた。

2 1) It has been only a week since I began a part-time job at a convenience store, but I'm already used to it.

「～してから 1 週間にしかならない」の時制は、<It has been … since ~> を用いる。It は「時間・天候」を表す it。Since～「～以来」を伴う文では現在完了形にするのが普通。この構文で注意してほしいのは、since 以下の動詞の種類である。この動詞は必ず「～する」という動作を示す動詞を使わないといけない。たとえば「教師になりたいと思ってから 10 年だ」という文なら、「なりたいたと思った」をどうすればいいか？ I wanted to be

a teacher では「教師になりたいと思っていた」という状態しか示すことができない。Want = 「なりたいと思っている」であって want ≠ 「なりたい」です。「なりたくなかった」という動作を表すためには、want という動詞ではなく、ほかの動詞を探すことになる。つまり「～になりたい」→「～になりたいと決心する」と考えて、decided to be ~ 「～になる決心をする」という動作動詞を用いるとよい。

(例) It has been fifty years since I first decided to be a doctor.

「医者を目指してから 50 年になる。」

「アルバイト」はドイツ語なのでそのまま英語として使うことはできない。Part-time という形容詞を用いて do a part-time job とするか part-time という副詞を用いて work part-time とする。ここでは began to do a part-time job を簡潔にして、began a part-time job としている。「コンビニ」は「コンビニエンスストア」の省略形で、a convenience store でよい。

「～に慣れた」は <be used to + 名詞／動名詞> 「～に慣れている」を使う。この used は形容詞で、動詞の過去分詞形ではない。また to は前置詞なので、後ろに動詞が来るときには動名詞にする。そして be 動詞を get

に変えて、<get used to + 名詞／動名詞>で「慣れる」という動作の意味になる。ここでは I'm already used to it. とするか、もしくは I've got used to it とする。I get used to it. とすると、I get up at 6:00. と同様の「習慣的行為」になるので、不可。なお、used to ~(V) 「かつては～だった」と混同しないように注意。

2 2) 今朝電車に乗った時、空いた席が見つからなかった。

2 2) When I got on the train this morning, I couldn't find an empty seat.

「電車に乗る」は take か get on か？ <get on the train> を用いるのがよい。Get on ~ は「(電車・バス・飛行機などの乗り物) に乗り込む」という意味。日本語では「乗り込む」という一瞬の動作も「～を利用する」という継続的動作も、「乗る」というので注意が必要。たとえば、「電車に乗って仕事に行った。」の「乗って」は「乗って～まで(に)行く(=電車を利用して～に行く)」の意味なので、get on the train ではなく、take the train となる。

反対に「(電車・バス・飛行機から)降りる」は on の反対語の off を用いて、get off~と言う。文脈から~が明らかな場合は~を省いて、get off だけでも良い。昔の日本人が「ここで降ります」の英語を言うときには”I get off.”「揚げドーフ」と覚えたのは有名な話。

なお、「車・タクシーに乗る」は狭い場所に入り込むというイメージなので、get into~を用いる。その反対語は get out of~となる。また「自転車・馬に乗る」といった「またぐ」という場合には ride a bike / a horse と言う。

(例) We used to ride our bikes a lot in summer.

「夏になると僕たちは自転車を乗り回したものだ」

「今朝」には in が必要か？ this morning, this summer, this evening など、<this + 時を示す名詞>の場合には前置詞は不要。<these + 時を示す名詞>の場合も同様。These days 「近頃」に in をつけてはいけない。

「空いた席」は an empty seat / a vacant seat を用いる。Vacant は「使用されていない」の意味のやや硬い表現。一般的には an empty seat が使われる。Empty は「人が誰もいない (部屋・建物・空間)」の意味で用いら

れる。ちなみにトイレの「空」の表示は vacant となる。

2 3) 今は眼鏡をかけていないので、あの標示に何と書いてあるのかわかりません。

2 3) I'm not wearing glasses now, so I can't make out what the sign says.

「～を身に着けている」は put on か wear か? 「～を身に着けている」という状態は <wear> を用いる。Wear～を「～を着る」と覚えている人が多いので注意が必要。Put ~ on / put on ~ 「～を身に着ける (動作)」との違いを次の例文で確認しよう。

① Tom usually wears brown glasses. → 普段の状態

「トムは普段茶色の眼鏡をかけている」

② Tom is wearing yellow glasses today. → 一時的な状態

「トムは今日は黄色の眼鏡をかけている」

③ Tom puts on his glasses when he gets up. → 習慣的動作

「トムは起きると眼鏡をかける」

④When I got to Tom's house, he was still putting on his clothes. →

進行中の動作

「私がトムの家に行くと、彼はまだ服を着ている最中だった」

この23)の問題文の「かけていなかった」は一時的な状態ですから、②と同じ時制を使うとよい。

では「制服を着るのが嫌いだ」なら、I don't like to [1. wear 2. put on] a school uniform.のどちらがいいか。「着るのが嫌いだ」というのは「着る動作」が嫌いなのではなくて、「着ている状態」が嫌いなわけですから、1. wear が正解。

「眼鏡」はレンズが2枚あるので、glasses と複数形を使う。「ズボン」は trousers で、「はさみ」は scissors も同じ感覚。

「わかる」はどう表現するか？ make out は、<can't make out A / can't make A out>の形で「A を識別できない／わからない」の意味。ただし「遠くてよく見えない」とか「早口で聞き取れない」という場合に使う熟語である。Understand 「意味が分かる、仕組みが分かる」とは使う場面が違う。なお、この文の場合は、can't make out を can't tell と言うこともで

きる。

新聞や標示などに「書いてある」場合は、 a newspaper / a sign says ～  
を使う。

2 4) 私は、故郷に帰れば 24 時間もしないうちに、自然と地元の方言を  
話している。

2 4) Less than twenty-four hours after I return to my hometown, without  
realizing it, I start to talk in the local dialect.

「～の後…で SV」は、<SV + … after ~>を用いる。これは SV after ~「～  
の後、SV」という文に「どれくらい後か」という情報を after の前に追加  
した形。だから…が after ~を修飾している。日本語の語順とかなり違う  
ので間違えやすい。次の例文で確認すると、

(例) It began to rain less than two minutes after I got to the park.

「公園について 2 分もしないうちに雨が降り始めた。」



また逆に「～の…前に SV」なら after の代わりに before を使えばよい。

(例) 「トムはアフリカに出発する 3 日前にうちに来た。」

STEP 1 「3 日」を無視して書いてみる。

Tom came to my house before he left for Africa.

STEP 2 before の前に数字を追加する。

Tom came to my house three days before he left for Africa.

これで完成。「～の後、…以内に SV」「～の後、…経つか経たないうちに

SV」とする場合は、…の部分をもっと less than… の形にする。

「故郷に帰る」は return to my hometown あるいは go to my hometown とする。

「自然と」はどう表現するか。この文の「自然と」は「知らず知らずのうちに」「気がつけば」の意味。<without realizing it>が適切。直訳すると「それをわからないで」となる。「知らず知らずのうちに」「気がつけば」といった意味を表すときに使う。この文での it は「地元の方言を話し始める」という内容を指す。

「地元の方言を話す」の「話す」は相手がいることをはっきりと示すために talk とする。「地元の方言で」は in the local dialect。Local は「地元の」という意味の大切な形容詞。「地元の食べ物」なら the local food、「地元の人」なら the local people となる。日本語の「ローカル」は「地方の」という意味で用いられることが多いので注意。

2 5) 人間は5～6歳になるころには、思ったことを表現できる能力を持つようになる。

2 5) Humans learn to express what they think by the age of five or six.

「～になる頃には」はどう訳すか？まず次の違いを確認しよう。

- |                 |     |        |
|-----------------|-----|--------|
| ①by~            | 前置詞 | ～までには  |
| ②by the time SV | 接続詞 | ～までには  |
| ③till~          | 前置詞 | ～までずっと |
| ④till SV        | 接続詞 | ～までずっと |

\* till は until で置き換えても同じ意味。

By を用いた場合には、「～までには…する」という文になり、till を用いた場合には「～までずっと…している」という文になる。By~を「～まで」と覚えていると間違えやすいので注意。

また till / until には接続詞としての用法があるが、by にはない。だから by the time とするというのは大切。本文では、「5~6 歳になるまでには」と考えて、by the age of five or six とするか by the time they are [reach / turn] five or six とする。「～歳になる」という場合に become は使わない。この文の「人間」は動物との対比として使われているので、humans あるいは human beings もしくは we を使う。また children 「(人間の) 子供」でもかまわない。

「思ったことを表現できる」は、日本語では「意見を言う」と言うが、英語では say one's opinion とは言えない。「意見・感情」を「述べる・言う」は必ず express を使う。

(例) express one's opinions and feelings 「意見と感情を述べる」  
一般論の場合には opinion も feeling も複数形にすることを忘れないように。

また同じ意味を節を用いて次のように表現することもできる。

(例) express what you think and how you feel

Think は通例、自動詞だが、what 節の中では他動詞として用いられるので注意。

「能力を持つようになる」は、「技術・能力の習得」であれば、<learn to (V)>が適している。少し難しいが、develop one's ability to (V)~「~の能力を磨く」も覚えておくとよい。